



WWFジャパン 第4回スクール・リマ2014

ADP2.6で議論されたこと

WWFジャパン
気候変動・エネルギーグループ リーダー
山岸 尚之

2014年11月20日（木）

1. ADP2.6以前の流れ

- コペンハーゲン以降の流れ



コペンハーゲン以降の国際合意

2010

カンクン合意 (COP16・COP/MOP6)

- コペンハーゲン合意に各国が提出した自主的な削減目標や削減行動を国連文書に登録

2011

ダーバン合意 (COP17・COP/MOP7)

- 京都議定書の第2約束期間の設立を決定
- カンクン合意の実施 (MRVの仕組み等)
- グリーン気候基金 (GCF) の設立
- ダーバン・プラットフォームの設立を決定



ADP

Workstream 1

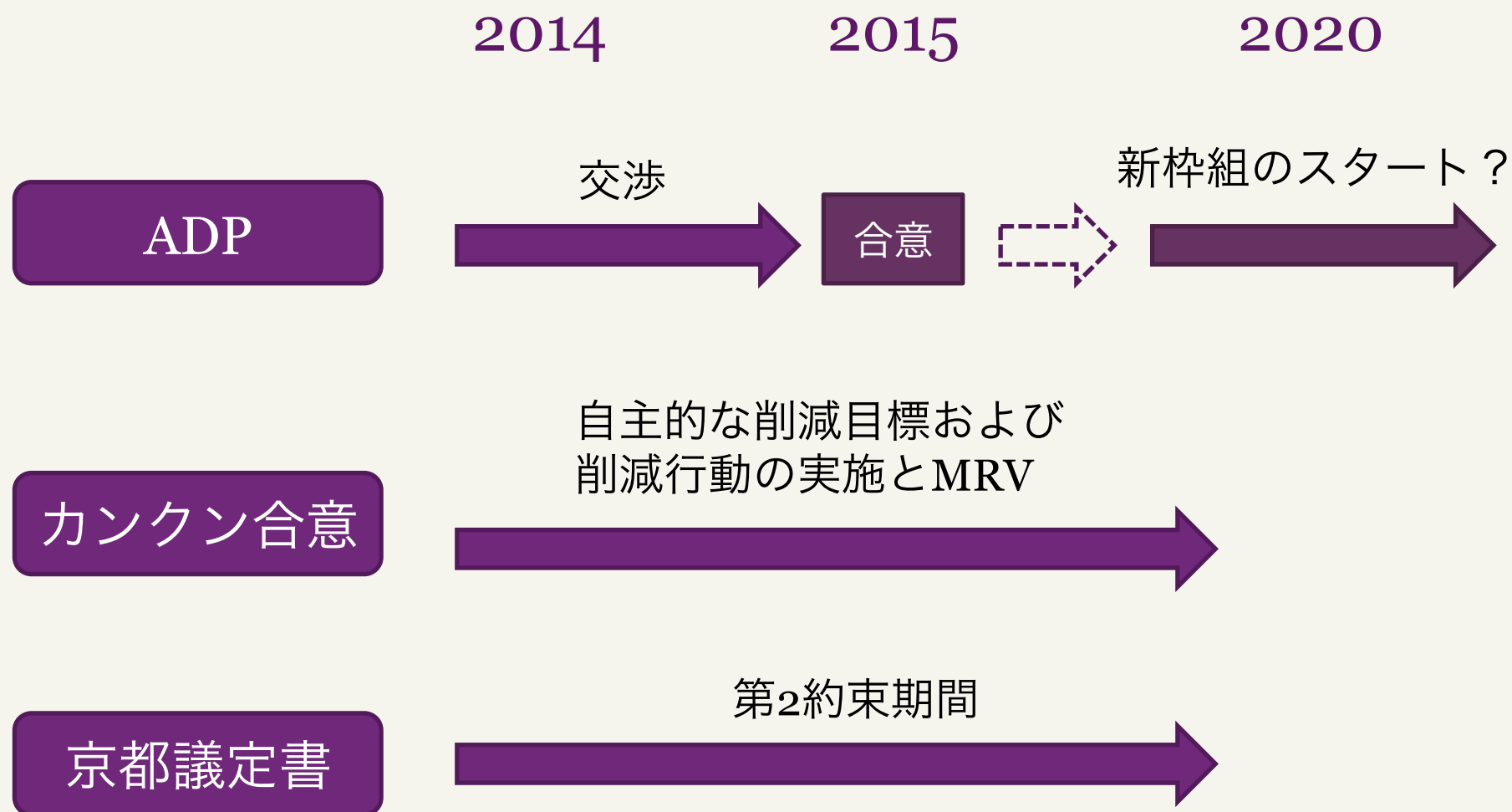
2020年以降の枠組みを2015年までに合意。

Workstream 2

2020年までの野心の引き上げ。



現在～2020年までの国際体制





ダーバン以降の議論

2012

ドーハ気候ゲートウェイ (COP18・COP/MOP8)

- 京都議定書の第2約束期間を含む改正案の採択
- 2015年合意へ向けたおおまかなスケジュール
 - 2014年12月のCOPにおいて2015年合意の「要素」(elements)を検討する。
 - 2015年5月までに交渉テキストを準備。

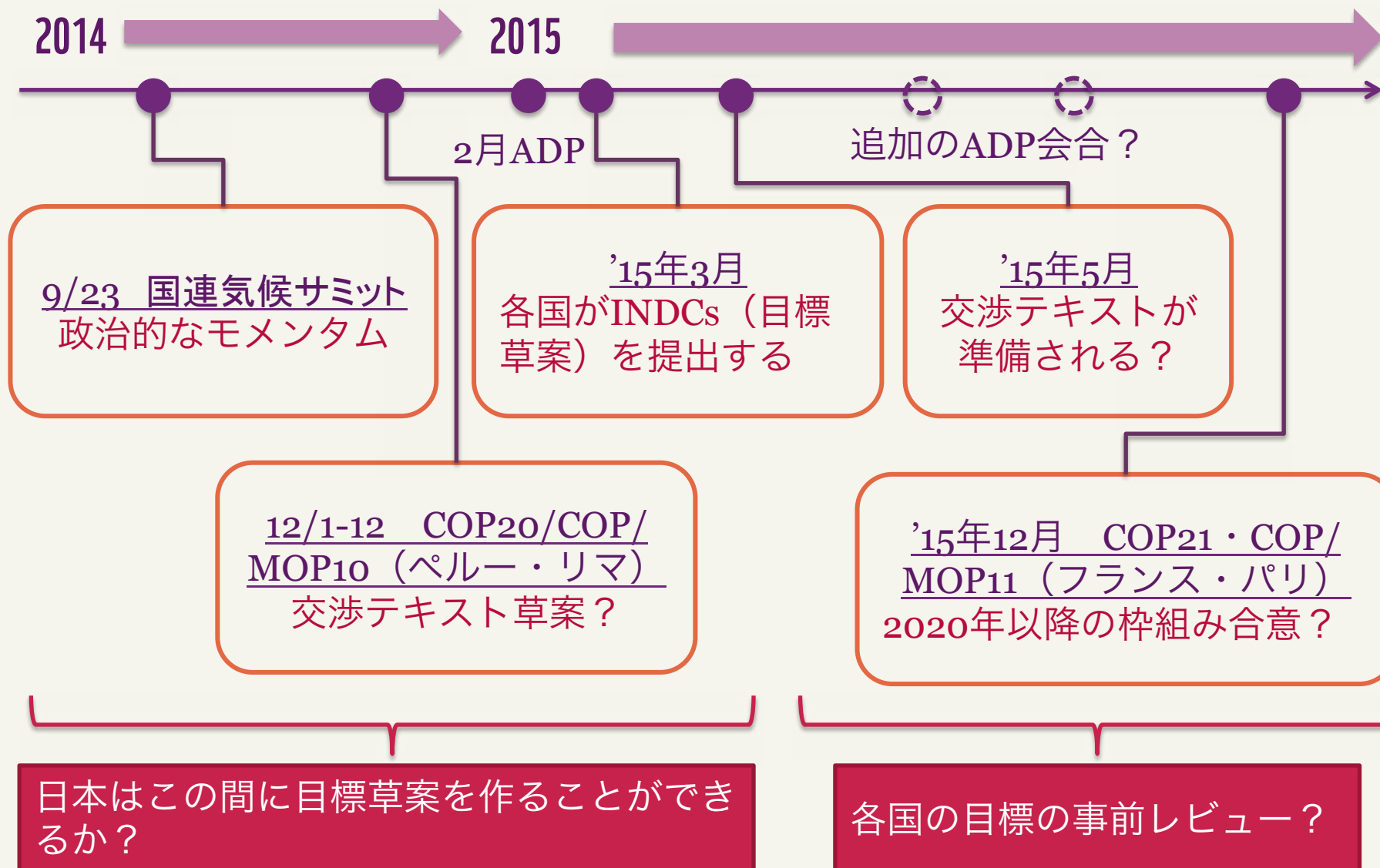
2013

ワルシャワ合意 (COP19・COP/MOP9)

- 各国は“Intended Nationally Determined Contributions” (INDCs) (国別目標案) を提出する。準備のある国は、2015年3月までに。
- 「損失と被害 (loss and damage)」に関する国際メカニズムの設立。
- 削減ポテンシャルの高い対策に関する専門家会合 (Technical Expert Meetings)の設立。



今後の予定



2. ADP2.6

－ 論点と結果

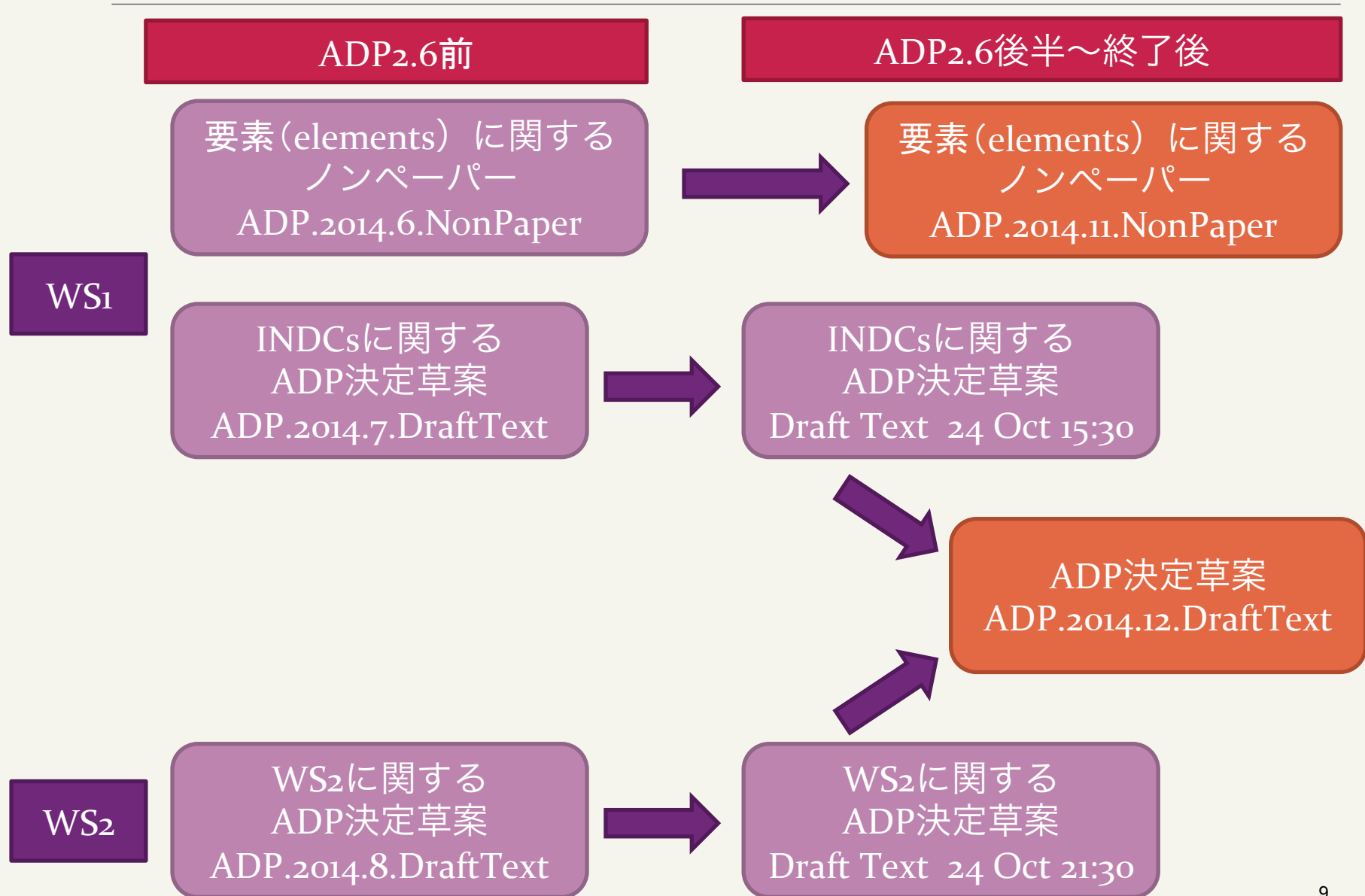


3つの論点

- 2015年合意の「要素」 (elements)
- INDCsの情報要件と事前レビューのあり方
- Workstream 2の今後



交渉関係文書の推移





目標草案（INDCs）に関する論点と議論

■ 緩和とそれ以外の扱い

- 先進国は基本緩和中心
- 適応目標に対する立場の違い
 - 支持（AILAC、アフリカ、LMDC）⇔ 懸念（AOSIS・LDCs）

■ 緩和に関する差異化の是非およびあり方

- 先進国の自己差異化（self-differentiation）
 - ⇔ LMDCの附属書I国・非附属書I国差異化
- ブラジル提案（同心円的差異化）が注目を集める

■ 事前レビュー（ex ante review）のあり方

- LMDCsがそもそもの必要性に反論
- 事務局によるテクニカル・ペーパー作成が消える？
- ワークショップのみ？



「要素」に関する論点と議論

- 緩和とそれ以外の項目の法的な扱い
 - 先進国（緩和中心） ⇔ 包括的（途上国）
- 適応や資金に関する長期目標
 - 適応目標（アフリカ、AILAC）：定性的目標？
 - 資金（or MOI）目標：AILAC
 - 誰が出すべきか？
 - 定着してきた新しい表現：“Parties in a position to do so”
- 「サイクル」
 - 緩和・適応・資金では異なるサイクルがあることへの認識



Workstream 2 の今後

■ TEMsの今後

- おおむね好評：TEMs 自体を継続することは決まりか？
- ただし、具体的な成果へのつなげ方はまだ不明
- AOSIS提案：ロジ面での強化、地域TEMs、政策メニュー

■ LMDC提案

- 「条約の義務（資金や技術支援を含む）の実施」の重視
 - Accelerated Implementation Mechanism (AIM)
- 先進国の削減目標の再検討
 - Revisit Mechanism



その他の論点

■ テキストの扱いについて

- 「締約国が提案した文書に基づいて」「交渉テキスト」を早く準備するべきとの主張が繰り返しLMDCから

■ コンタクト・グループを分割するか？

- Focused open-ended groups をリマで作る？
 - LMDCs、BASIC、アフリカ



国々のグループ

※この図は網羅的ではありません。また、一部、メンバー国の重なりを反映できておりません。

